

野田ゆずる 議会レポート

令和8年第1回定例会報告

連絡先：事務所

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈3丁目7-29-D103

Tel&Fax 022 (739) 9630

<https://www.y-noda.net>

info@y-noda.net

■ご意見等がありましたらお気軽にお寄せください。



今回の議会レポートは、令和8年第1回定例会報告です。

第1回定例会では、総額7306億4700万円の2026年度一般会計当初予算、市立小学校給食費の完全無償化などの議案76件を可決。

太陽光パネルのリサイクル体制整備を求める件、特別市（特別自治市）制度の早期実現を求める件、安全保障上の不適切な土地取得・利用を防止するための法整備を求める件の意見書3件も可決しました。

令和8年第1回定例会 自由民主党代表質疑より

施政方針に込めた思いについて

質問 国のリーダーである高市早苗総裁は、未来は与えられるものではなく、自らの手で切り開くものとして国民に信を問い、実現力、発信力が高く評価されていた。同じ女性リーダーの一人として、行政のトップとして、新年度の施政方針に込めた市長の思いと決意を伺う。

答弁 これら2036年プロジェクトともいうべき未来への投資を加速するとともに、人づくり、そしてまちづくりの好循環により、ひととまちがともに輝く施策を推し進めていくとの決意を施政方針に込めた。

こどもの健やかな成長を応援する子育てが楽しいまちの実現に向けた取組や世界へ挑むスタートアップの支援、また観光施策とも連動した都心のまちづくりなど、施政方針に掲げる各般の施策を前に進め、思い描いた未来を形にするために力を尽くしていく。

新年度予算について

質問 複合施設整備をはじめ、多くの大型プロジェクトが並走する中での7000億円を超える大型予算であり、今後の仙台市の財政運営は大丈夫なのかといった懸念も持たれている。市長は、施政方針において、従来の延長線上にとどまらない行財政改革に取り組むとも述べられた。

今後の財政運営に対する市民の皆様の不安にどう応えていくのか、所見を伺い、新年度予算の特徴とともに市長の意気込みを伺う。

答弁 新年度予算は、財政調整基金の減少など厳しい財政環境にあっても、小学校の給食費無償化や第二子以降の保育料の無償化など、未来を担う世代を社会全体で育むための施策や、スタートアップ支援、観光振興といった稼ぐ力とまちの魅力を高める取組のほか、防災力やまた医療体制の強化といった安心の基盤を構築する施策などを積極的に打ち出した。

学校給食費の完全無償化について

質問 市債を投じてまで完全無償化の決断に至った経緯と市長の思い、今後、財政面、運営面の双方において、制度の持続可能性をどのように確保し、栄養士さんの苦労があることを理解しながら、さらに給食がおいしいと喜ばれる質の向上に向けた取組をどのように進めていく考えか伺う。

答弁 今般、国が創設する制度では財源が不足するところだ。しかしながら、市議会の皆様方における議論や、無償化に期待をお寄せいただいた市民の皆様方の思いに応え、子育てがしやすいまちを着実に実感していただきたいの思いから、本市の財政負担により完全無償化を実現する決断をした。



第2子以降の保育料無償化について

質問 第2子以降の保育料無償化については、市長の公約にも掲げられたが、どのような内容で、いつから開始するのか。

答弁 保育所や認定こども園のほか認可外保育施設等も対象とし、そして、兄弟の数え方については、年齢や保育施設等の利用状況にかかわらず、同一世帯のこどもの数を上から数えるとする。

防災庁誘致に関して

質問 東北の復興なくして日本の再生なしとし、東日本大震災の経験と教訓を生かして復旧・復興の取組を長年続ける本市こそがふさわしいと信じている。

市長は、本市に地域拠点が設置される意義をどうお考えか、これからさらにギアを上げて実現に向けてどのように取り組んでいくつもりか。

答弁 首都圏や各地との良好なアクセスに加え、世界的な防災研究拠点である東北大学災害科学国際研究所が立地するなど、本市には多くの強みがあり、先月には議長と共にこうした優位性を国にお伝えしてきたところだ。

今後、東北大学や経済団体等と連携し、産学官民による誘致の体制づくりを検討するなど、地域が一体となって取り組む機運を醸成し、誘致活動を加速させていく。

複合施設について

質問 複合施設整備に対しての市長の考えをお聞かせください。

答弁 災害は今後も世界のあらゆる場所で起こり得るもので、本施設が生み出し続ける災害文化は、国内外より訪れる多くの方々にとっても、自らの学びとして持ち帰ることのできる大きな財産となる。

こうした営みを通じて都市の創造性を飛躍的に高め、仙台というブランドを世界に向けて強力に打ち出していけるものと確信している。本市が世界から選ばれるまちとして成長していくための極めて大きな原動

力とすべく、確固たる決意の下で整備を進めていく。

質問 現在の全体事業費、備品等を含め646億円が示された。そこに市債の利息が100億円と、現時点でおおよそ750億円だ。さらに上昇する可能性は否めない。

建設費が青天井になっていることへの財政としての不安がないのか、財政局に伺う。

答弁 事業費の精査や有利な起債の活用のほか、企業版ふるさと納税等の民間資金の獲得による本市負担の縮減が重要だ。そのため、本市が整備する意義や思いが市民の皆様や企業の方々に伝わるよう、積極的に発信し続けることが必要と考えている。

年度内に国の予算が成立しない場合の影響について

質問 年度内に国の予算が成立しない場合、本市の予算執行はどうなるのか、当局の認識を伺う。

答弁 仮に成立しない場合であっても、新年度当初からすぐに必要となる予算について、国民生活に支障が生じないように、国において暫定予算を年度内に成立させるものと見込んでおり、学校給食費無償化も、暫定予算での対応が検討されている。引き続き、国の暫定予算の範囲などを注視しながら、極力、市民生活に影響が生じないように速やかな対応を図っていく。

宿泊税の施行状況について

質問 宿泊税開始から本日でちょうど1ヶ月がたった。まずは、現状の施行状況について伺う。

答弁 事業者の皆様の御協力により、特別徴収義務者の登録が全て完了した状態で、先月13日の課税開始を迎えることができ、現在のところ問題は生じていない。

今後も、事業者の皆様の御意見を伺いながら、徴収業務や申告納入が円滑に行われるよう丁寧な対応に努めていく。

宿泊税活用の方向性等について

答弁 世界を引きつける観光コンテンツの造成や国内外での戦略的プロモーション等の新規・拡充の財源として活用する。

新年度は、秋保大滝滝見台の整備に着手するほか、欧米などへの発信の強化、



複合施設の外觀イメージ

二次交通やナイトコンテンツの拡充などを図る予定だ。

質問 インバウンドの拡大についてはどのような考えか。

答弁 インバウンドの拡大に向けては、欧米豪などの新たな市場開拓も重要となってくる。

新年度は、欧州市場での本市ゆかりのアニメを活用したプロモーションとか、東北の食の魅力を強くアピールするため、タイでの東北観光物産展の開催なども計画している。

分庁舎の方向性について

質問 仮庁舎を含め全ての各庁舎等の方向性について、解体等を含めどのようになっているのか伺う。

答弁 新本庁舎の開始となる令和10年度には、現在、分庁舎や仮庁舎に分散している行政機能は、新本庁舎と上杉分庁舎に集約することを基本に据えている。

仙台赤十字病院移転後の医療機能の確保について

答弁 外来患者に関しては、新たな医療機関を創設する需要が乏しく、入院については、近隣に代替可能な医療機関が複数あること、また、現在仙台赤十字病院が果たしている回復期機能は限定的との見解が示された。

地域からは、仙台赤十字病院の患者が地域の診療所で受入れが可能なのかといった具体的な対応策を求める意見があるなど、不安の解消には至っていない。

初期救急医療体制について

質問 昨年度の年末年始に休日夜間診療所が大変混雑したことを踏まえ、本年度は体制を強化して臨んだ結果、混乱なく患者の受入れができたとのことだ。医療関係者の皆様の尽力に敬意を表します。

今回の年末年始の初期救急に係る対策による効果について、当局はどのように評価しているのか伺う。

答弁 今回の年末年始は、市医師会や医療機関のご協力の下、休日当番医の拡充、仙台オープン病院への臨時外来設置により患者の分散化を図った結果、市内3か所の休日夜間診療所の患者数は昨年度の4割程度となり、比較的スムーズに受診いただくことができた。

一方、今般の検討過程で、北部急患診療所だけではなく、急患センターや夜間休日こども急病診療所においても、施設上の制約や医療スタッフの確保等の課題を改めて認識したことから、休日夜間診療所全体の在り方の検討が必要との考えに至った。

初期救急医療を将来にわたり安定的に提供できるよう、新年度に必要な調査分析や検討を進め、その方向性を明らかにしていきたいと考えている。

仙台若者会議について

質問 固定概念にとらわれることなく、自由闊達な会議であることを期待するが、この会議を設ける目的は如何か。

答弁 若者の柔軟な発想力や多様な価値観を市の施策に反映し、まちづくりに生かすとともに、次世代を担う人材の育成を目的として設置するものだ。

委員は、18歳から39歳までの方で、経済やまちづくりなど幅広い分野から推薦された方のほか、公募による委員で構成することを想定している。

観光アンバサダーについて

質問 現状の4名3組では広域を担うためには不足、もっと積極的に新たな方に就任いただくことがあってもと提案するが、観光アンバサダーについての認識を伺う。

答弁 今年度も、サンドウィッチマンを活用した観光パンフレットを制作したほか、来月には、東日本大震災から15年の節目に合わせ、羽生結弦さんの歩みを振り返る特別展示を国際センター駅で実施することとしており、国内外から多くの皆様が訪れるものと考えている。

今後とも観光アンバサダーとの連携により周遊や消費を促す取組を進めるとともに、アンバサダー制度の充実に向け、様々な分野で活躍されている本市ゆかりの著名人について情報収集に努めていく。

他にも、

- 特別市に関して
- 客引き対策について
- 西公園屋内遊び場に関して
- 復興のシンボルに関して

多岐にわたり質疑を行いました。

令和8年度当初予算のポイント

令和8年度当初予算のポイント及び予算規模

令和8年度当初予算のポイント

ひとの力がまちを動かし、まちでの挑戦がひとを成長させるという好循環の創出に向け、
・こども・若者を育む (1,188億円)
・世界に誇れるまちを創る (914億円)
・共生のまちを築く (1,938億円) の3つの柱を中心に予算を編成

令和8年度当初予算額

- 市全体の当初予算額 : 1兆3,405億円 (前年度比+772億円)
- うち一般会計当初予算額 : 7,306億円 (前年度比+549億円・過去最大規模)

	令和8年度	令和7年度	増減額	前年度比
一般会計	7,306億円	6,757億円	+549億円	108.1%
特別会計	3,379億円	3,309億円	+70億円	102.1%
企業会計	2,720億円	2,567億円	+153億円	106.0%
合計	1兆3,405億円	1兆2,633億円	+772億円	106.1%

【市全体の当初予算額】

1兆3,405億円(前年度比+772億円)

- 一般会計／7,306億円(前年度比+549億円)
障害福祉サービス等の給付費や泉区役所建替の増加など
- 特別会計／3,379億円(前年度比+70億円)
介護保険事業特別会計における保険給付費の増加など
- 企業会計／2,720億円(前年度比+153億円)
高速鉄道事業における営業費用の増加等市税等の収入率向上や国・県支出金の最大限の活用、既存資源の有効活用等による財源創出により歳入を確保するとともに、事務事業の見直しや効率化、予算の厳選重点化の徹底により歳出を削減した対応をとる。

歳入予算額の内訳と推移



- 令和8年度の主な増減理由
- 【市税】2,548億円(前年度比+96億円) : 給与所得等の増加による個人市民税の増加、土地に係る負担調整措置による固定資産税の増加など
 - 【市債】813億円(前年度比+100億円) : 泉区役所建替に係る市債の増加など

歳出予算額(目的別)の内訳と推移



- 令和8年度の主な増減理由
- 【健康福祉費】2,749億円(前年度比+171億円) : 障害福祉サービスや保育施設等への給付費の増加など
 - 【総務費】779億円(前年度比+110億円) : 魅力活力創出基金への積立や市役所本庁舎建替経費の増加など

令和8年度歳入予算の主な増減理由

●市税／2,548億円(前年度比+96億円)

給与所得等の増加による個人市民税の増加、土地に係る負担調整措置による固定資産税の増加など

令和8年度歳出予算の主な増減理由

●健康福祉費／2,749億円(前年度比+171億円)

障害福祉サービスや保育施設等への給付費の増加など

●総務費／779億円(前年度比+110億円)

魅力活力創出基金への積立や市役所本庁舎建替経費の増加など

令和8年度新規事業(一部抜粋)

- 第2子以降の保育料無償化
- 小学校における学校給食費の完全無償化
- 体験格差是正のためのパウチャー事業
- 救急搬送体制の強化とドクターカー等整備
- ツキノワグマ被害防止対策

【泉区】2026年度主要事業

- 泉区役所建替
- 泉中央地区活性化
- 泉西部地区活性化
- 泉ヶ岳活性化推進
- 公立保育所建設
七北田保育所(教育支援センターと合築)
- 教育支援センター建替え(七北田保育所と合築)
- 泉中央駅周辺交通結節機能強化推進
- 地域生活道路等整備(長命ヶ丘幹線3号線等)
- 道路防災対策(杉ノ崎線等)
- 橋りょう震災対策(北山実沢線(新早坂下橋))
- 市民センター大規模修繕(寺岡)
- コミュニティ・センター大規模修繕設計(泉松陵)
- 公園整備(水の森公園等)
- 道路施設長寿命化修繕(国道457号等)
- 広域的な道路ネットワークの整備
(泉塩釜線等)
- 協働による郊外居住地課題対応
- 地域・高校連携による安全安心まちづくり
他